

◎市長（角光雄君） ただいまの小川議員の御質問にお答えをいたしたいと思います。

白山市の総合計画に、団塊の世代に対する施策をどのように位置づけているのかとの御質問でございます。多くいろいろと御質問ありますけども、助役以下、それぞれ部長に要求されておりますので、私の方から与えられた問題についてお答えをいたしたいと、こんなふうに思います。

終戦後、間もない昭和20年代前半のベビーブームに生まれた団塊の世代は、来年からの数年間に大量に定年を迎えることから、2007年問題として、ここ数年、主に経済界やマスコミ等で取り上げられることが多く、この団塊の世代は幼いころから非常にたくさんの競争相手の中でもまれ、昭和40年代の日本の高度経済成長を担い、まさに戦後の日本を支えてきた非常に活力ある世代だと思います。

このような世代の方々が、白山市のみならず、都市部を初め、日本全国で一斉に定年を迎えることは、地域社会や経済に大きな影響を与えることは言うまでもございません。

このエネルギーにあふれ、各界で活躍してこられた優秀な人材は、これからの町づくりの担い手、行政と市民との協働には欠かせないマンパワーであることは間違いございません。

総合計画では、「まちづくりはひとづくり」との認識のもと、市民の豊かな感性や責任感をはぐくみ、世代間、地域間の交流、連携を深め、お互いに助け合う活動の輪を広げ、生きがいを持って暮らせる元気な町を目指すものであります。

これら団塊の世代の方の力と知恵を、市政に最大限に取り入れる工夫が必要であると、私も同じ考え方であります。

そうした認識のもとに、これからもいろいろと工夫を凝らし、こうした団塊の世代の皆さんのお力をかりたいと、こんなふうに思っておるところであります。

せんだつてもあるテレビで、ある人が定年になりまして、これからの人生はと聞かれたときに、これからは出発だという力強いそういうことをお話いただいておりますけれども、私もそのとおりだと。私も75歳でもうあと2年間の任期がありますけれども、退職しても、これからは出発だ、こんな元気な姿でこれからの人生を送っていきたくないと、こんなふうに思います。

私の友人がおります渋谷工業とか津田駒工業、あるいはコマツにおきましてもしかりでありますけれども、せんだつてNHKの番組である企業のいわゆる後継者育成運動に、定年後の皆さんが活躍されておる姿を見て、それぞれの生き方があるなというふうに思いますし、これからの白山市におけるそれぞれの企業の皆さんにも、そうしたことを指導申し上げていきたい。そして、団塊の世代の皆さんも本当に生きがいのある生活を続けてほしい、そんなことを願っておる一人であります。

◎助役（杉本哲郎君） 団塊の世代の社会参加への条件整備についての御質問にお答えいたします。

本定例会に上程しております、本市の町づくりの指針であります総合計画の基本構想の中に、市民との協働による自立したまちづくりが重要であると位置づけており、計画策定段階からの市民の参画、市民や市民団体によるまちづくりなど、市民の声が活かされる環境整備が必要になってくると考えております。

また、定年後は、豊かな自然の中で緑に親しみ農業を営むなど、ゆったりとした生活を送りたいとする方がおいでる一方、利便性を求め、市街地での生活を希望する方もたくさんおられることから、にぎわいのある中心市街地の活性化方策についても検討していくことが肝要であると考えております。

いずれにいたしましても、総合計画の基本目標におきまして、「市民の参加と交流による一体感のあるまちづくり」を目指しており、そのためには市民参加によりますNPO法人の育成、さらにボランティアの窓口の一元化など進めることといたしております。

さらに、市民の交流や地域社会への参画を一層進めるため、市民に対してイベントやボランティアに関する情報提供の充実、市民の交流広場など、情報交流の場の創出や世代を超えた交流事業を行い、団塊の世代の方が新たな生きがいを地域社会に見出せる環境の充実を図っていきたいと考えております。